



シラバス関連 > シラバス参照 > シラバス検索 > シラバス一覧 > シラバス参照

印刷



タイトル「2020年度シラバス」、フォルダ「経済経営学類」
シラバスの詳細は以下となります。



科目名	問題探究セミナー I		
担当教員	佐藤 英司		
対象学年	1年,2年,3年,4年	クラス	経:C
講義室		開講学期	後期
曜日・時限	木5	単位区分	必修
授業形態	演習	単位数	2
備考			
特修プログラム		ナンバリング	g3310010
教育目標との関係 (DPポイント配分)	基盤教育 基盤教育	最新の専門知識及び技術 本質を見極めるための教養と学際性 協働的な問題探究 社会の改善につなげる創造性 市民としての主体的態度	20 % 20 % 30 % 20 % 10 %
授業方法	<input type="checkbox"/> 講義 <input checked="" type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> 実験 <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技 <input type="checkbox"/> グループワーク <input type="checkbox"/> 発表 <input type="checkbox"/> ディスカッション <input type="checkbox"/> フィールドワーク <input type="checkbox"/> ICT機器の活用		
授業概要とねらい	<p>[授業概要] 大学では学生自ら何らかの報告資料を作成した上で発表し議論することが求められます。本演習では、そのためのスキルを実践的に身につけていきます。問題探究セミナーIでは、さまざまな政策課題を各グループで産業を1つ選び、経済学の考え方にもとづいて課題解決を受講生間で議論・検討します。</p> <p>[授業のねらい] 本演習のねらいは、大学で求められている主体的な学習を経験しそのためのスキルを少しでも身につけ、今後の専門的な学習への橋渡しとなることです。また、現実の産業・企業の行動に関する問題を発見・考察できるようになることです。</p>		
単位認定基準	主体的な学習を行うスキルを身につけていることを達成する水準とします。具体的には、次の5点になります。 ・与えられたテーマに関する情報を収集すること ・収集した情報を整理すること ・自分の伝えたい情報を他人に伝達すること ・意見交換や議論すること ・ゼミ運営に貢献していること		
授業計画	受講生を4つのグループに分けます。報告1では全グループ報告、報告2～報告5では2グループずつの報告を予定しています。 1. スタートアップセミナーの復習 2. 講義: 経済政策を考える上での経済学の視点 3. 報告1: 選択した市場における需要の特徴に関する報告(1): Aグループ・Bグループ 4. 報告1: 選択した市場における需要の特徴に関する報告(2): Cグループ・Dグループ 5. 報告2: 選択した市場における供給の特徴に関する報告(1): Aグループ・Bグループ 6. 報告2: 選択した市場における供給の特徴に関する報告(2): Cグループ・Dグループ 7. 報告3: 政策的課題の解決策に関する報告(1): Aグループ・Bグループ 8. 報告3: 政策的課題の解決策に関する報告(2): Aグループ・Bグループ 9. 報告4: ポスター素案報告(1): Aグループ・Bグループ 10. 報告4: ポスター素案報告(2): Aグループ・Bグループ 11. 学外日帰り研修(サービス業見学、予定) 12. 報告5: ポスター完成版報告(1): Aグループ・Bグループ 13. 報告5: ポスター完成版報告(2): Cグループ・Dグループ 14. まとめと今後の学習への橋渡し 15. 予備日		
教材・教科書	・戸田山和久(2012)『新版 論文の教室』NHKブックス。 ・宮野公樹(2013)『研究発表のためのスライドデザイン』講談社ブルーバックス。		
参考図書	演習内で随時紹介します。		

参考URL	
授業以外の学習	教科書を熟読の上、報告資料作成に取り組んで下さい。 学外研修以外に季節行事やレクリエーションを教養演習Ⅰ・教養演習Ⅱを通じて計画しています。積極的に参加し受講生間でのコミュニケーションを深めてください。
成績評価の方法	報告パフォーマンス60%、演習参加状況40% 演習参加状況は「出席点」ではなく受講生同士での議論や各種イベント運営などにおいて積極的に参加しているか否かを評価します。また無断欠席は一切認めません。
成績評価の基準	S: 単位認定基準を満たし、かつ全ての項目で優秀な学習成果をあげた(90点以上) A: 単位認定基準を満たし、かつ多くの項目で優秀な学習成果をあげた(80点以上90点未満) B: 単位認定基準を満たし、かついくつかの項目で優秀な学習成果をあげた(70点以上80点未満) C: 単位認定基準を満たす最低限の学習成果をあげた(60点以上70点未満) F: 単位認定基準の学習成果をあげられなかった(60点未満)
オフィスアワー	木曜日12:00-12:50をオフィスアワーとします。ただし事前にアポイントを取った学生を優先します。また、木曜日12:00-12:50以外の日時を希望する学生は授業後もしくは電子メールでアポイントを取って下さい。
授業改善・工夫	受講生の希望にできるだけ沿うようにしたい
留意点・注意事項	・遅刻や早退、また報告を行わない場合は、機械的に単位へ反映させます。 ・現実の産業・企業の行動に関する問題を発見するため、学外研修を教養演習Ⅰおよび教養演習Ⅱで行います。
教員の実務経験の有無	

